

膣内フローラ検査

認定マイクロバイオーム解析士による
個別アドバイス付き



VAGINA

女性が健康的に輝いていられるためには、膣内環境はとても大切です。

女性は10代からの月経から始まり、妊娠、出産、そして閉経までと、膣内の環境は大きく変化していきます。日々のストレスや加齢により膣内フローラが乱れると膣や子宮内に悪玉菌が増えてしまいます。

そうならないために膣内に必要なのがラクトバチルスという乳酸菌です。

ラクトバチルスから出る乳酸が膣内やデリケートゾーンを酸性にして外部からの雑菌から守ってくれます。ご自身の膣内のタイプを知り、いつの年代でも輝いて気持ちよく過ごせるように、膣内ケアを始めましょう。

お名前: 森本 真希 様

検査日:2023/03/02

検体番号: REG-V-0031

MB解析担当: 大村

あなたのCSTは

4型

1 型	L. crispatus	4 型	ABC(Cは5つに分類)
2 型	L.gasseri	5 型	L. jensenii
3 型	L. iners	6 型	L.johnsonii

CSTとはCommunity State Typeの略で膈内の細菌の割合でタイプ別に分類しています。
CST 1、2、3、および5はすべて、単一のLactobacillus種によって支配されており、CST 4の方は細菌性膈炎(Bacterial vaginosis)、好気性膈炎、尿路感染症、不妊、早産などのリスクが高い状態です。
CST 4はさらに3つの小さなサブタイプに細分され、4-Cはさらに5つの追加のサブタイプに分類されています。その他のラクトバチルス種の優勢菌種によりCST5とCST6に分類されます。

ラクトバチルスの割合 90%以上が理想	BVリスク細菌の割合 0%が理想
0.00 %	5.01 %

乳酸菌が減ると細菌性膈症になりやすくなります。
乳酸菌が減少する原因はいくつかあります。
抗生剤、性交渉、膈の洗浄、ストレス、女性ホルモンの変動(ピル、生理)などになります。
細菌性膈炎に原因菌があるというよりも、何らかの原因で膈内の細菌バランスが崩れた時に発症します。
細菌性膈炎は、以下の性感染症と症状がよく似ています。
・淋菌 ・クラミジア ・トリコモナス ・カンジダ

早産リスク細菌	0.00 %
不妊リスク細菌	0.00 %

あなたへのアドバイス

あなたのCSTは4C型に分類されます。細菌種の多様性が高く、酸性度が低い(保護性が低い)pHが特徴です。今回僅かですが、膈のpHを下げ、病原体の侵入を防ぐのに役立つ乳酸を産生する連鎖球菌種が検出されています。前回検出されていたLactobacillusは未検出でしたが、細菌性膈症リスク細菌がかなり減って5.01%検出されています。

まだ安心できる状態ではありません。注意することとしては、膈を洗いすぎると、せっかくの乳酸菌がいなくなってしまうです。その瞬間はスッキリしますが、その後はむしろ雑菌が入りやすくなります。生理後や性交渉の前後に時々お湯で洗浄する程度だといいいんですが、気になって毎日のように石けんで洗うとよくないのです。デリケートゾーン専用のものを使用するようにしましょう。